

一人ひとりが「生活の主体」として育つ乳児保育

-より豊かな乳児保育について考え合う-

2018年8月25日(土)、26日(日)

一人ひとりが「生活の主体」として育つ乳児保育の実現に向けて

子どもが人生の第一歩を踏み出し、親もまた親としての第一歩を歩み始める乳児期。子どもが人生の始まりを幸せに、健やかにスタートさせ、同時に、すべての親が喜びをもって子育てに向かえるよう支援していくのが乳児保育の役割です。

乳児保育夏季セミナーは、今回で第3回目。1998年に第2回夏季セミナーが愛知(豊橋)で開催されてから20年振りとなります。前は児童福祉法の改正に合わせて乳児保育が一般化されたこと、今回は保育所保育指針の大幅な改定を踏まえて、より豊かな乳児保育について考えあうためのセミナーの開催です。

今回の指針改定では、乳児保育(3歳未満児まで)の記載が充実したとされています。その一方で、3歳以上児の保育内容については大きな変化が見られます。とりわけ重大なことは、幼児期の終わりまでに育ってほしい子どもの具体的な姿として10項目が挙げられ、指導を行う際に考慮するものとされていることです。10項目の内容についてはいくつか問題点が指摘されていますが、セミナーとの関連で言えば、要求や自己を主張する子どもの姿が発達にとって重要なものとして描かれていないことが懸念されます。なぜなら、私たちは乳児保育において、自我をしっかり育て、子どもが自分の要求や自己を表現したり、主張したりできるようになることを大切にしてきたからです。

全国保育問題研究協議会では、子どもを一人の権利主体ととらえ、子どもはたとえ小さくても自分で考え、納得して決める、自分の生活の主体として育つことを援助・支援してきました。その育ちは、保育所の中で、子どもが安心して生活し、友だちとかかわり、あそぶことを通して形成されます。子どもが生活の主体としていきいきと育つために、乳児期の保育はどうあればよいのでしょうか、シンポジウムや提案をもとに考えたいと思います。

そして、保育の向上を願い、自分の保育実践を振り返ろうとするときには、自分はなぜそのようなねらいと活動を設定したのか、それに対する子どもの行動はどうだったのか、その時の子どもととらえ方はどうかなど自分の保育について意識化することが求められます。そのための視点についても学び合いたいと思います。

乳児保育は、複数で担任することが多く、とりわけ若い保育者の多いことが特徴です。乳児保育分科会は1972年に第1回が開かれた歴史の古い分科会であり、今回のセミナーを、若い保育者にとって、乳児保育分科会のこれまでの積み上げを学習する場としても位置付けています。

2日間の豊かな学びと討議を通して、参加者一人ひとりが自分の保育に展望がもてるようになることを期待し、多くの方々の参加をお待ちしています。

首都大学東京 南大沢キャンパス 6号館

(東京都八王子市南大沢1-1) 京王相模原線南大沢駅 徒歩5分

1日目 8月25日(土)

- 12:00 受付
12:45 開会のあいさつ
セミナー実行委員長：中川 伸子
全国保育問題研究協議会代表：西川由紀子
13:00 基調提案
14:00 シンポジウム
15:30 休憩
15:45 実践提案(シンポジウムをふまえて)
17:15 2日目の案内
17:30 終了

「あの日のオルガン」-疎開保育物語-

第二次世界大戦末期の1944年。戸越保育所では、保母たちが保育所の疎開を模索していた。まだ幼い園児たちを手放す不安、迫りくる空襲から子供たちだけでも助けたいと意見の分かれる親たちを保母たちが必死に説得する中、埼玉に受け入れ先の寺を見つけ、疎開生活をスタートさせるが。

出演：大原櫻子 戸田恵梨香 田中直樹 橋爪功 他

会場：首都大学東京 南大沢キャンパス大講堂

日時：8月26日(日)

開場：13:30 開映：14:00~16:00 料金：無料

※セミナー受付横にて鑑賞整理券を以下の時間に配布します

8月25日(土) 12:00~15:45

8月26日(日) 9:00~13:00

2日目 8月26日(日)

- 9:00 受付
9:30 分散会(3教室)
12:00 まとめ(各教室)
12:30 閉会

シンポジウム「豊かな乳児保育を創造するために-実践を深める3つの視点」

近年、共働き世帯が増え、乳児保育は社会的にも認知されています。シンポジウムでは特に3つの視点を取り出して検討します。それは、①乳児が生活の主体になるとは？、②一人ひとりをしていねいに保育するとは？、③そのための保護者とのよりよい関係づくりとは？の3つです。すでに「国連子どもの権利条約」等でも、乳児期からその成長・発達にふさわしい「意見表明権」が提起されています。そのためにも乳児の「主体」や「ていねいな保育」の内実が具体的に問われます。また同時に、保育者とともに保育を創造する「保護者との関係づくり」も求められます。各視点から3人のシンポジストに問題提起をしていただき、実践を深める手だてを追究していきます。

コーディネーター 亀谷和史(愛知保問研)

「乳児が生活の主体になるとは？」

大阪保問研 増本敏子

赤ちゃんは産まれた時からその可愛いフォルムで私たちに働きかけてきます。かわいいフォルムに誘われてのぞき込み、触れずにはおられません。少し経てば「クークー」と声を出します。私たちは「はい、はい『クークー』って呼んでくれるの？」と思わず真似をして相手をします。

このように、子どもは客体から主体になるのではなく、現に主体として、外界に働きかけている存在なのだと思います。

おとなからすると困った行動でも、子どもが要求をもち、精いっぱい力で実現しようとしている姿だと思うと愛おしい！

「一人ひとりをしていねいに保育するとは？」

仙台保問研 杉山弘子

「この人といると安心で楽しい」という保育者との関係を一人ひとりの子どもと築き深めていくことは、一人ひとりをしていねいに保育することの基本です。それを土台に、気持ちのよい生活と楽しい遊びを保障していきます。そのためには、自我の育ちや仲間との関わりにも目を向けながら、一人ひとりの発達や要求を理解することが大切になります。子ども理解は、子どもとの直接的な関わりだけでなく、その子の姿を他の保育者や保護者と伝えあうことで進みます。複数のおとなのまなざしと協働のなかで、一人ひとりの子どもを生活の主体として理解し尊重しながら、仲間との生活と遊びを豊かにしていくことが、一人ひとりをしていねいに保育することではないでしょうか。

「保護者とのよりよい関係づくりとは？」

愛知保問研 平松知子

保育園には子どもの豊かな発達を願う大人たちがいます。それが保護者と保育者で、この関係性も「どっちが上か」とか「片方はお客さま」という関係ではなく、できれば子どもが「大きくなったねえ」という発達を喜び合うパートナーのような関係性でありたいものです。しかし、現実には2015年の子ども・子育て支援新制度や、2016年の企業主導型保育所のひろがりから、「保育は福祉」と「保育はサービス」の二極化が存在していると言えるのではないのでしょうか。子どもは発達の主権者、大人は自分らしく生きる労働権の主体者だと考えた時、どんな保育が求められていくのでしょうか？ 両者の関係づくりを軸に、考えてみたいと思います。

「子どもの主体性を育む環境づくり」

大阪保問研 高瀬 歩美

子どもが、自分から「してみたい！」と思えるような生活を目指して保育してきました。次に向かえるような働きかけや言葉かけ、また、子どもの姿や成長に合わせた環境づくりも大切にしてきました。子どもたちが「おもしろそう！」と思えるような楽しいあそびを紹介したいと思います。夏にはたくさんの感触あそびを経験したり、様々な場所をハイハイして探索なども楽しんでできました。子どものことを理解するために、場面記録をとって日々の保育を振り返り、「子どもにとって」を一番に保育を考えてきました。

「保育の中で大切にしたいこと」

東京保問研 李 綏陽

入職1年目で1歳児を担任し、そのクラスを持ち上がって昨年度は2歳児クラスを担任しました。外遊びはもちろん、電車遊び、ブロック遊び、赤ちゃん人形のお世話、ごっこ遊びなどで遊ぶことが大好きなクラスです。子どもたちの考える遊びは、見ている大人も“面白い！”と思うものばかり。時には、子どもたちの遊びに大人も入って、楽しさを共有したり、一人ひとりの気持ちを聞きながら、子ども同士の違いを橋渡しして関わってきました。子どもたちを保育する上で大事にしてきた、一人ひとりの思いを聞くことや、一人ひとりの姿に目を向けることについて、提案します。

「保護者理解と保育園の役割」

愛知保問研 和田 亮介

一人ひとりを大切にしたい保育づくりを進めていくためには、保育園と保護者が手を取り合うこと、お互いのことをよく知りあうこと、伝え合うことが欠かせません。しかし、生活リズムが整わない、持ち物が揃わない、自我の育ちに寄り添えない、伝えようとしても伝わらない…保育づくりをすすめながら、「困った」保護者の状況に出会いました。今日の保護者の状況をどう理解するのか、何が子育ての困難をもたらしているのか、保育園にどのような役割が求められているのか。格差・貧困と自己責任が広がるなかで、保護者と子どもたちが非常に厳しい生活を強いられている現状に直面し、職員集団で試行錯誤してきた実践です。

分散会1 テーマ：乳児が「生活の主体」になるとは？

「じぶんたちできめる、ともだちとむかう」

広島保問研 寺尾 幸子

1歳児の低月齢クラスで、4年前に同じ年齢のクラスを担任したことを思い出し、その時の反省から、今回は始めから友だちとの楽しい活動の中で自我や友だちとの繋がりをつくっていきこうと決めていました。そして、班づくりや子ども同士を繋げる活動など、前回よりは積極的に取り組んでいるつもりでした。しかし、9月の班名決めの際、担任が班名を決めようとしていたところ、周りの職員からアドバイスを受け、子どもたちが班名を選べるようにしました。この時、「前の1歳児の時は…」と、また固定的な見方をしている自分に気づきます。そこから、目の前の子どもの姿を分析して取り組んでいくことの大切さを学びました。

分散会2 テーマ：一人ひとりを「ていねいに保育する」とは？

「0歳児のやりたい気持ちを育てる-人とかかわることが大好きなJ君の姿から-」愛知保問研 相川 仁美・松木 亮太

ななくさ保育園は1歳児から5歳児の異年齢で生活するおへや（クラス）が4つ、0歳児のおへや（クラス）が1つの園。開園当初から、窓越しに大きい子たちをじっと見る姿や一緒に遊んで嬉しそうなおへやの姿がありました。そこでやりたい気持ちを大事にするため、途中から異年齢クラスに移行することにしました。

J君は月齢も高く、0歳児クラスから大きい子たちの様子をじっと見ていて、クラスでは満足しきれない姿もありました。移行してからは、節分の車になつたり、片づけを友だちの分までやってあげたりするようになっていきました。幅広い年齢と一緒に暮らす異年齢保育

分散会3 テーマ：保護者とのよりよい関係づくりとは？

「子育ては大変！だけど楽しい！！」

北埼玉保問研 宮前 奈々江

今年の4月から0歳児クラス7人のあかちゃんとの生活が始まりました。近年の様子から年度の途中の入園も多く、秋ごろには15人のクラスとなる見込みです。保育園の方針として、子どもを真ん中に家庭（父母）と保育園とが手をつなぎ、共に育ち合うことを目指しています。今回で3度目の0歳児担任となりますが、前回、前々回とあかちゃんクラスから年長クラスの6年間を持ち上がった経験を活かし、新たに担任する子どもたちや保護者との出会いを大切に、私自身も5歳と3歳の我が子を育てながら、子育て仲間でもある保護者にも「子育ては大変！だけど楽しい！！」と思ってもらえるような保育をしていこうと考え、実践している提案です。

申し込み方法

□ 参加費 6,000 円 (学生 3,000 円)

□ 申し込み方法

① 申込期間 6月4日(月)～8月17日(金)

② 申し込み先 zenho2018seminar@yahoo.co.jp へメールで申し込んでください。

止むを得ず FAX で申し込む場合は、03-3818-8026 (全国保問研事務局) にお願ひします。

③ 定員 300 名、先着順です。定員になり次第締め切ります。

④ 複数人まとめての申し込みも可能です。

⑤ 申し込みから一週間以内に受付番号と振込み方法等の返信をします。

(パソコンメール等の拒否設定を外し、必ず全国保問研事務局から返信する受付番号や振込み方法等の内容をご確認ください)

□ 申し込みの際の記載事項

① 名前 (フルネーム)

*複数人申し込みの場合は、全員の名前を記入し、代表者に印をつけてください。

② 連絡先 (携帯可) *連絡先が職場の場合、職場名を記入してください

③ 都道府県名 (各地保問研に所属の場合は保問研名、学生の場合は大学名)

④ 二日目の参加希望分散会 (前ページの提案内容を参照の上、申し込みください)

1. 乳児が「生活の主体」になるとは?

2. 一人ひとりを「ていねいに保育する」とは?

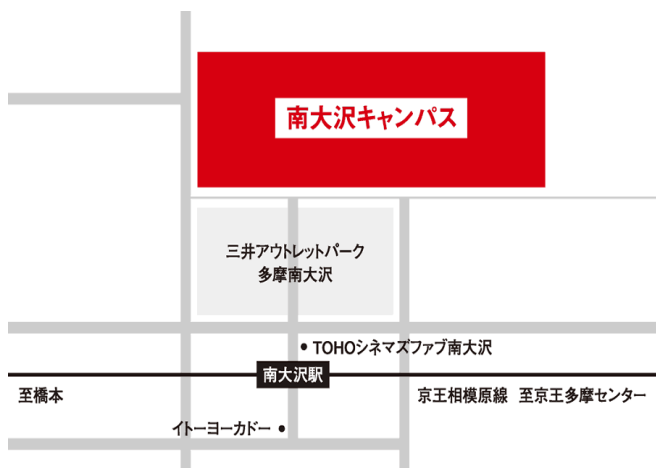
3. 保護者とのよりよい関係づくりとは?

□ 宿泊: 各自でご手配ください。

*夏休み期間中のため、都内の宿泊は込み合います。お早めに各自でご予約ください。

□ 問い合わせ: 全国保育問題研究協議会 事務局 TEL / FAX 03-3818-8026

交通案内



京王相模原線「南大沢」駅 下車徒歩 5 分

新宿より 2 パターン案内

① 京王線「京王八王子」行乗車。調布にて京王相模原線「橋本」行乗り換え、「南大沢」下車

② 京王線特急・準特急「橋本」行乗車。「南大沢」下車

橋本より

① 京王線相模原線乗車 「南大沢」下車